

【小学生の英語教室】のご案内

★A A Oの小学生の英語教室とは★

2020年度より、これまで中学校からだった「教科」としての英語が、学習指導要領の見直しにより、小学校5年生からスタートし、「英語」の成績がつくようになりました。これに伴い、中学校での英語の授業が、小学校で学習したことの続きから始まっています。

今までの「聞く」「話す」が中心の小学校の「外国語活動」は小学校中学年が中心となり、小学校5年生、6年生では、中学校の英語と同様に、相当数の英単語や基本的な英文を「書ける」ようになることが求められます。

ただ、この英文をきっちり「書く」ことが、中学生を見ていて、一番苦勞しているように感じています。また、学校での定期テストや入試においても、「書く」ことの配点が高い状況も依然として続いています。

そこで、AAOでは毎年、小学5年生、小学6年生を対象に「小学生の英語教室」を開講しています。高校入試を専門に中学生の授業をしている講師が、『英語の勉強のしかた』や、中学入学後の英語の学習でのアドバンテージになることを指導していきます。

★A A Oの『小学生の英語教室』の特色★

英会話ではなく、「アルファベットを書くこと」から始め、「ローマ字」「単語のスペル」など、英語を書けるようになることを中心に指導し、「英語の文の型」を理解して、『きっちりと英語を書く』ことを目標とします。

★具体的な取り組み例(1)★ (小学6年の1年間受講)

- ① アルファベット大文字・小文字を書けるようになること。
- ② ローマ字(ヘボン式)で、名前や日本の地名が書けるようになること。
- ③ 基本的な単語(名詞・動詞)が読め、書けるようになること。
- ④ 代名詞表の単語の意味を覚え、書けるようになること。
- ⑤ be動詞(is/am/are)の基本文(疑問文・否定文含む)を書けるようになること。
- ⑥ 「this is ～.」「that is ～.」の文章を書けるようになること。
- ⑦ 一般動詞の基本の英文を書けるようになること。
- ⑧ 3人称単数現在形の英文を書けるようになること。
- ⑨ what や where、when を使った疑問文を書けるようになること。等

◎ 1年間で、中1の学習単元をクリア！

★具体的な取り組み例(2)★ (小学5・6年の2年間受講)

- ① 最初の一年間で取り組み例(1)の①～⑨を終えました。
- ② be 動詞、一般動詞の過去形の英文を書けるようになること。
- ③ can、will、must、should などの助動詞を使った英文を書けるようになること。
- ④ when、if、because、that などの接続詞を使った英文を書けるようになること。
- ⑤ there is、there are を使った英文を書けるようになること。
- ⑥ to 不定詞の3用法を使った英文を書けるようになること。
- ⑦ give などの目的語を2つとる英文を書けるようになること。
- ⑧ 比較級、最上級の基本の英文を書けるようになること。等

◎ 2年間で、中2の2学期までの学習単元をクリア！

その他、英検のリーディング問題やリスニング問題の演習を実施しました。また、教科書の新出単語の暗記練習や小テストを繰り返し実施しました。

学習した文法知識の活用が必要となる、中学校の中間テストや期末テスト、高校入試で出題される文法問題にも積極的に取り組んでいます。

◎授業料のご案内(小学生の英語教室)

対象学年	授業曜日	授業時間	授業料(1日あたり)
小6 小5	毎月開講日を 連絡します (水曜日)	午後 4:40～6:05 1回 約 85分	2,000 円 算数・国語受講生は 1,500 円

- * 毎月最後の英語教室の授業時に翌月の英語教室の開講日を連絡します。
月に2～4回の授業日を予定しております。
月に3回開講する場合 → $2,000 \text{ 円} \times 3 \text{ 回} = 6,000 \text{ 円}$ の授業料となります。
(算数・国語受講生は $1,500 \text{ 円} \times 3 \text{ 回} = 4,500 \text{ 円}$ となります。)

- * 上記の授業料の他に、年間プリント代として 3,000 円(税込み)を受講開始月にいただきます。